いなほ

稲積神社社報
第14号
平成12年11月1日発行

稲積神社御鎮座四百年奉祝
記念事業に御協力下さい。

祭典行事暦

（十一月～二月）

毎月
一日　月始祭
三日　月次祭
十五日　神恩感謝祭
古神札焚上げ祭

十一月　七五三祈願祭
新嘗祭

二十八日～二十九日　伊勢神宮
新穀感謝祭

十二月　古神札焼納祭
三十一日　大祓式

一月一日　歳旦祭
新年祈願祭

二月　節分祭
初午祭
天満天神社
受験合格祈願
八日　針供養祭

一日、三日、
十五日には、
神社にお参り
しましょう

運勢と祐気取り

宮司　根津泰昇

生命は自分で好んで得た生命では無く、神様から現世でしっかり生きなさいと与えられた生命です。

人間は母親の胎内で九つの星の作用を受け、育みこの世に誕生してきます。誕生したその年の星があなたの本命の星となります。（暦を参照下さい。一白水星、二黒土星等です。）誕生から約二十五歳位までは、両親や身の回りで深く関る人々の星の作用を受けて成長していきます。又逆に七十歳位になりますと、「苦あれば楽あり」の如く、社会生活の中で苦楽を繰返し経験する訳ですので、九つの星も繰返し吸収して人生の年輪を重ねてきます。その結果が、「年の功」とか「丸くなった」とか言われるのです。

運気には、広義に見て、盛運期、平運期、衰退期の三期があります、前に述べた様に二十五歳以前の幼運期と円熟期を除く四十五年の間に、盛運、平運、衰退運が五度回ってきます。盛運期にはより向上を図るために、平運期には向上した運気を継続し守るために、衰退期には下降線をより少なくするためこのままエネルギーを蓄える時期であります。

この運気をより良くするために祐気取りがあります。祐気取りとは、自分の星がその年の一番相性の合う方位、場所に定められた日時に出向き霊威なる息吹きを身体に潤し、お水取り、石取りをする事を言います。健康運・運気向上を願うならお水取り又は石取り、災難厄除、方位除なら石取り、金神除、土地鎮なら石、砂取りをします。それを神社で祓清め、神霊遷しの祭事を行いお守といたします。

祓清めた水、石、砂は次のように使います。健康運は、飲水し、石は身につけます。災難厄除、方位除も石を身につけます。商運繁栄、家運隆昌を願うなら玄関口か吉方位に置きます。病気平癒祈願なら石を床下に鎮めます。金神除、土地祓、新築増改築には敷地の中心か、願主の吉方位に鎮めます。以上が祐気取りです。

現世でも、神様にしか明らかにされない不思議な神力が万物に宿っております。祐気取りをして、神様のご加護をお授り下さい。

お尋ねになりたい場合は社務所にお問合せ下さい。

職場体験学習

前号にひきつづき、山梨大学附属中学校の総合的な学習活動の一環として行なわれた職場体験活動報告です。

稲積神社で得たコト

山田　里美

今まで、私の中での神社といえば、おみくじとお守りと元旦のお参りぐらいだった。今回、神社の体験学習にあたって、最初の動機というものはとてつもなく不純なもので、みこサンの服が着たい！であった。一つ真面目なのは、めったにできないコトだから、ココを選んだっていう動機。

神社でやるコトといえば、そうじぐらいかなーと思ってたけど、そうじゃなかった。朝は、そうじ、そして、初めて知ったコト、神サマへのゴハン（お供え）。昼は、結婚式など。そして夜はてっせんというものをするそうだ。

毎月一日には、げっし祭をやるそう。今日、その祭に同行させてもらった。みこさんのカッコで。そこで学んだコトは、ぎょうぎ、作法、神サマについて。男の性格をしている私は、みこサンの姿になかなかなじめず、女らしい歩き方や、立ち方など、一番苦労した。神社ならではの作法で驚いたのは、ぞうりを、お宮に上がるときに、向きを変えず、そのまま（ぬいだまま）であるコト。意味は、なるべく神様におしりをむけないコトらしい。もちろん、家ではいつもどおりになるが。

神さまについて得たコトは、神さまは一人ではないというコト。神社の人達は、私が思っているよりずっと、神様のことを尊く思っていた。神サマは、何でもお願いをきいてくれるワケではなく、人それぞれである（？）というコト。神主さんが言うには、神サマから与えられた人生の道にずれたりするとバチがあたり、道がもしずれてしまって、それを戻してあげようとするのがゴリヤクらしい。神サマは、誰にも見えないけど。生き方によって、自分の中に神は見えると思った。

今回、体験をさせてもらって、少し心がキレイになった気がする。貴重な体験をありがとうございました。

「in稲積神社」

附属中　坂本　沙智

私が職場体験で「神社」を希望したのは・・・きものが着たい！なんて言う単純な理由からです。

その目的は、神社にきてからすぐに達成できました。ちょっと（かなり？）歩きにくかったけど、楽しかったです。写真も沢山撮れたし、とっても満足！

一番の目的はきものを着るコトでしたが、もう一つは、神社の中を観察して、神社のつくりを知って修学旅行に備えるコトでした。

今日は月始祭や遷座祭など特別なものが見れたし、神社の中のつくりも知れたし、その他に礼儀（お参りの仕方など）もわかったので、これで修学旅行は大丈夫。

今回の職場体験学習は一番の目的だったきものも着れたし、修学旅行への予備知識もできたし、とっても充実した一日でした。

帰りには、おみくじをひいて帰ろう♪目指せ大吉!!

平成十三年度

祈願提灯奉納のすすめ

古来より清浄なる火に神宿ると言われております。

この故事にちなみ、当神社では、ちょうちんに住所、氏名、家内安全、商売繁昌祈願のどちらかを書き入れ御神前に掲げ一年の御繁栄、御幸福と共に社頭の殷賑を図っております。

宏大無辺なる稲荷の神様の御加護を戴く日々をお過ごしになるよう「祈願提灯」の奉納をお勧め致します。

祈願提灯初穂料
一灯　一年間　七千円以上

祝祭日には
国旗を上げましょう!!

神社社務所でも頒布しております。

国旗セット
（国旗、竿、金色冠頭、取付金具、収納袋付）
頒布価格　一、五〇〇円

あしあと

全国大会に参加して

崇敬青年会　野澤　賢次

第三十八回全国氏子青年協議会定期総会が、八月五日に、「新たな時代の幕開けは豊かな森の大地から！氏青活動未来に発信！未来にチャレンジ！」のスローガンのもと青森県青森市「青森市文化会館」で行われ、我々青年会は、山梨県氏子青年協議会々長の佐藤久良氏を先頭に十名が、飛行機で青森に飛び参加しました。

大会は、津軽三味線の演奏からはじまりました。夜のレセプションは、青森ホテルで行われ、会場ではねぶたに参加するための講習会が行われました。

青森はこの時期、「青森ねぶた祭り」で青森の氏青の皆さんのご好意で勇壮なねぶたのパレードを特等席で見ることができました。また全国氏青協ねぶたが練り歩きました。今も鈴の音が頭をよぎります。

二日目は、レンタカーを借りて、一路仙台へ向かいました。途中、豪雨に見舞われたのが思い出されます。

仙台は、この時期「仙台たなばた祭」で、我々は秋保温泉に泊り、「たなばた」を楽しみました。

七夕は、アーケード街を多くの飾りで埋め尽くされていました。平日ではありましたが人出は多く歩くのにも苦労しました。その後「たなばた」はそこそこに、名物、牛タンを心ゆくまで楽しみました。

来年は、京都での開催となり、次回も皆で楽しく行くことができたらと思っています。

ソフトボール部近況報告

コーチ　高山　安夫

本年度、ソフトボール部は長年にわたり監督として、運営、試合日程、その他いろいろな面で御苦労いただきました白倉氏に変り、新しく山口新監督のもとでのスタートをきりました。

しかし今年も新入部員の加入もなく相変わらず人数あつめには苦労しました。各人がそれぞれに仕事をしていますのでその都合と、日程をその都度調整しあいながら試合をこなしていくというような、具合でした。

しかし、そんな中でも、特に八友会のリーグ戦においては八月までは、初戦の不戦敗を除いては、負けなしの快進撃でした。その内容も、緊迫した投手戦をサヨナラホームランで制し、打撃戦を逆転勝ちで勝利したり、と実の内容のある勝ち方でした。

その甲斐あって現在まで、九勝三敗と優勝を狙える位置にいます。過去八友会のリーグ戦においては連覇はどのチームも成し得なかったことなので是非頑張ってみたいと思います。

公式戦の春の大会では、パート決勝で敗退、また秋の大会では初戦での抽選負け、とどうも日中の試合はいま一つというところですが、これも今後の課題として来季に向けて考えるべきところでした。

オリンピックでも日本女子の活躍でソフトボールもずいぶんメジャーなスポーツとして脚光をあびてきました。そんな中、これからも前述したとおり厳しい状況の中ではありますが、全員野球で一丸となり足りないところはお互いに補い合いながらしっかりとした活動を行なっていきたいと思います。

ご存知ですか

（稲荷神社）

稲荷神社は、全国で最も多く祭られている神社で、約三万社ぐらいあるといわれます。赤の鳥居に狐の狛犬、二月の初午と誰もが連想するように、民衆にとけこんだ非常に親しみのある神社です。赤色は豊作を象徴する色、狐は神のお使い、初午祭は稲荷さまの鎮座の日にちなんだ祭り、いずれも稲荷信仰の歴史と特色をあらわしています。

総本社は京都の伏見稲荷大社、主祭神は宇迦之御魂神。和銅四年（七一一）二月七日初午の日の鎮座と伝えます。宇迦之御魂神は倉稲魂神（うかのみたまのかみ）とも書き、別名を豊受気比売神（とようけひめのかみ）、保食神（うけもみのかみ）、大宣都比売神（おおげつひめのかみ）などとも称しますので、神社によっては祭神の表記が違う場合もあります。「うか」「うけ」は古く食物を意味する言葉です。また稲荷（いなり）は「稲生（いねな）り」「稲成（いねな）り」の意味で、神像が稲を荷っているところから「稲荷」の字があてられました。

稲（米）は食物の中心であり、食物は生命のもとですから、その「みたま」（魂）を宇迦之御魂神とたたえあがめているわけです。

稲荷の神はもともと農業の神でしたが、米一粒が何倍にも殖（ふ）えるように、広く殖産の神としてあがめられるようになり、商売繁昌の福の神としてはもとより、諸産業の守護神としてあらゆる職業の人に信仰されています。

御日供献饌講について

当神社では毎朝大神様に神饌（米・酒・乾物・野菜・果物・塩・水）をお供えして祭典を奉仕しております。

このおまつりを「御日供祭」と称し、御日供祭にお供えする神饌奉献者の集まりを御日供献饌講と申します。

御日供献饌講は、毎年、一月一日より十二月三十一日迄を区切りとして、毎朝講員の皆様の繁栄をお祈り申し上げ一年間お護りいただく御礼として順次大神様に神饌をお供えして参ります。

又、御奉献いただいた講員の方々に、年一度お集り願って大神様に益々の御加護を祈年すべく御日供献饌講々社祭を斉行致します。

この御日供献饌講の初穂料は一年間三千円です。

御希望の方は御参拝の折に受付へお申し出下さい。

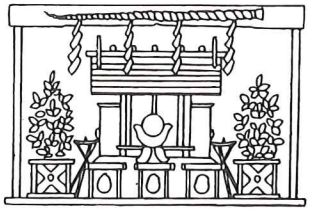
正月の準備

一年の初めの月にあたりますから、新年を迎える種々の行事が行われます。かつては正月行事の準備は、十二月十三日から始めました。門松に代表される歳の神を迎える「年木」を山から採ったり、一年間の煤を払う煤払い、二十八日には餅をつき、座敷には年棚を設け、あるいは神棚の掃除、大晦日には一年間の罪、穢を祓う大祓神事などあわただしく歳の瀬が過ぎていきます。年が明けると初詣、若水汲み、雑煮をはじめとするお節料理、年始回りから七日の七草粥までが正月の行事とされます。

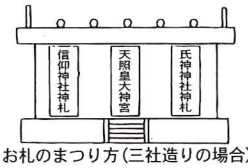
神棚のまつり方

正式な神棚はまず鴨居などを利用して棚をつくります。棚の中央に宮形（神殿）を据え、扉の正面に鏡を、左右に榊や灯明を立てます。注連縄は太い方を向かって右、細い方を左にして掛け、紙垂をつけます。

神棚の向きは南向きか東向きが良い。



神棚のまつり方



お札のまつり方（三社造りの場合）

神前　米　水　塩　二列のとき

神前　水　米　塩　横一列のとき

古いお神札の納め方

旧年中の古いお神札等は、神社で神事を行ない祓い清めたのちに焼納しますので近くの神社にお納め下さい。焼納祭の日時は神社により異なります。神札は神社のものであればどこの神社のものでも構いません。また御神矢（破魔矢）、熊手などの縁起物や神棚なども一緒に神社に返納します。

大祓（おおはらえ）

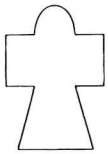
大祓は、一年を二つに分け、六月と十二月の晦日に大祓式を行ない、それぞれの前半期の罪歳を祓う神事である。

神道では、人は本来神さまの心をもっていると考え、生活している間に、知らず知らずにその心もくもり、罪を犯し、穢にふれて、神さまの心から遠くなって行くのを、祓いによって、本来の心に帰ると教えるのです。

従って、肉体的な清め祓いというより、むしろ、心の穢を取りのぞくことが大切なのです。

形代で身を撫で息を吹きかけるのは心の穢を追い出す事を意味し、自分の穢を人形に移し、人形をわが身の代わりにして清めてもらうのです。

神社で受けた形代に、家族の名前を書き、それぞれ身を撫で清い心に立ち帰るよう願い、息を三度吹きかけます。十二月三十一日、大祓の式の始まる前までに、形代に初穂料をそえて、社務所にお持ち下さい。



代形

厄年について

「厄」には木のふしの意味があり、厄年とは、人の世で生きとし生ける者が避けて通ることのできない人生儀礼です。数え年で、男は二十五歳、四十二歳、六十一歳、女は十九歳、三十三歳、三十七歳、六十一歳が厄年と呼ばれ、古くより慎むべき年とされています。

これらの歳は、社会的にも身体的にも、人生という旅で、大きな山を乗り越える最も大切な時期です。

厄除の仕方には

厄年の人が、平穏な一年を願って厄除をいたす方法は、古来よりいくつかありますが、一つは、神社に参拝し、祓いの神事によって、その人に積った厄を払い、さらに、より良い人生を送れるように祈願するものです。又厄年の人の親類、知人が共に参拝し、大勢の人々によって厄を祓いやるなどの方法があります。

厄除祈願の申し込みは

社務所にて、住所、氏名、年令をご記入の上お申し込み下さい。

平成十三年厄年表（数え年）

女	男	厄年	女		男		
13歳	13歳	前厄	32歳	S四十五年生	41歳	S三十六年生	
19歳	25歳	大厄	33歳	S四十四年生	42歳	S三十五年生	
37歳	61歳	後厄	34歳	S四十三年生	43歳	S三十四年生	

数え年とは、満年令に誕生日前には二歳、誕生日後には一歳を加えた年です。

しめ飾セット

正月用しめ飾セット当神社にて頒布しております。

（しめ飾セット）

御年神札、三宝荒神、しめ、神棚十二枚、玄関三枚、床間二枚、人形二枚綴十組、屋敷神四枚

初穂料一セット三千円

命継く食もの衣もの住むいへも
稲荷の神の恵みなりけり
正ノ木稲荷大明神
稲積神社
甲府市太田町公園内鎮座
電話(055)233-5573
FAX(055)226-0787